

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	川崎市立京町中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	4	13	25
生徒数	100	120	108	5	333	

研究の概要

1. 研究主題

<p>進んで学ぶ生徒を育てる ～自らを知り、自ら設定し、自ら取り組むことのできる態度の育成～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1・2・3年生・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 1・2年・英語 少人数指導が効果を上げると期待される教科であり、入門期の指導が重要であるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 効果的な少人数指導のありかた 研究の見通し(仮説) 少人数指導を継続していくことによって、生徒の学習意欲は向上していく。学習集団の編成方法や基準を、学年・教科の特性に合わせて決定することにより、さらに少人数指導の効果は上がるはずである。 研究の内容・方法 少人数制指導を実践しながら問題・課題を見つけ出し、それに対する解決法を模索する。継続的にアンケート調査を行い意識の変容を見る。 また、数回にわたり授業研究会を行なうことにより、全教科の職員からの意見を集約し研究の糧とするとともに、この研究の成果を他教科にも波及させていく。他校の研究発表会に積極的に参加し、情報交換をする中で、広い視野をもって研究をすすめていく。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 進んで学ぶ生徒を育てる ～自らを知り、自ら設定し、自ら取り組むことのできる態度の育成～ 研究の見通し 数学科においては習熟度別指導が効果を上げ、英語科においては均質な集団編成による技能別指導が効果を上げるはずである。そして、それぞれの教科の特性に合わせたこれらの指導に合致した評価方法を発見することができるはずである。 研究の内容・方法 前年度の成果と反省を踏まえ、新たな仮説を立てながら、さらに望ましい学習集団の編成法、少人数制を生かした指導・評価法を試行し、検証していく。 *前年度にはテーマ・仮説が未定であったため、今年度決定したテーマ・仮説を付け加えた。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 進んで学ぶ生徒を育てる ～自らを知り、自ら設定し、自ら取り組むことのできる態度の育成～</p> <p>研究の見通し 数学科においては習熟度別指導が効果を上げ、英語科においては均質な 集団編成による技能別指導が効果を上げるはずである。そして、それぞれの 教科の特性に合わせたこれらの指導に合致した評価方法を発見することが できるはずである。</p> <p>研究の内容・方法 今年度を立てた仮説をもとにして、さらに効果的な指導法とそれに合致 した評価方法を見出すべく研究を進め、それをまとめ、発表する。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制

<p>学力向上フロンティアスクール推進委員会 (メンバー 学校長・教頭・教務主任・学習部主任・数学科教員・英語科教員) *メンバーの変更はないが、名称を改めた。単に少人数指導の方法の研究にとど まらず、広く学力の向上に資する研究とするためである。</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>前年度の研究成果として、少人数指導は数学科・英語科のいずれの教科においても、生徒の学習意欲を向上させるために有効な指導方法である、しかし、単に人数が減ったというだけでは大きな成果は得られない、したがって、教科・学年の特性に合わせて特色ある指導法を創意工夫していかなければならない、ということが明らかになった。</p> <p>前年度前半においては、両教科とも、機械的に分けた学習集団で、同時に同内容の授業を実施していた。それでも、指導者の目が個々の生徒に行き届き、一斉授業に比べてはるかにきめ細かい指導が可能になった。しかし、指導法は一斉授業のそれと大差ないものであった。しかも、複数の指導者が、指導内容・進度を合わせることで、毎学期の評価・評定の際に個々の指導者の主観を可能な限り排して公平な評価を下すことが予想をはるかに超えて困難であることが明らかとなり、これらの問題を解決しなければ、少人数指導は早晚行き詰まるという見通しがたった。</p> <p>そこで、後半は、数学・英語の両教科が、それぞれの教科と実施学年の特性を考慮して、それぞれの創意工夫のもとに、さらに効果的な指導とそれに合致した評価の方法を模索しはじめた。その端緒となったのが、数学の習熟度別集団編成と、英語の技能別指導であった。</p> <p>今年度は、それらをさらに効果的なものにするを第一の目標として掲げ、それぞれの教科で仮説を立て、授業実践を通してそれを検証していくことにした。数学においては、生徒の希望をもとに編成した習熟度別集団による授業を実施した。前年度の反省を生かし、生徒がより自分の学習状況に合った選択ができるよう、各コースの名称を「基礎」「発展」から「定着」「充実」と改め、より詳細な説明と懇切丁寧なオリエンテーションを行い、編成の段階から慎重に進めていった。「定着」と「充実」の各コースの指導内容・指導方法も、工夫を重ねてそれぞれの集団の生徒にふさわしいものに変えていった。しかし、前年度と異なり、生徒数の減少に伴う学級数の減少により、いずれの学年も2集団にしか分けられなくなったため、各コースの特色を生かした指導が困難になり、結果的にはいずれのコースもほぼ同じ指導内容にならざるをえなくなった。それぞれのコースの中での下位生徒に照準を絞ることにより、とくに「充実」コースの上位生徒からは「もっと高レベルの授業をしてほしい」という不満が出る結果となった。一方、「定着」コースの下位生徒は、習熟度が低いのみならず、いわゆる生徒指導上の問題をかかえていることが多く、学習意欲を向上させることが困難であり、それに労力を費やすことになり、思うように効果を上げることができないという問題に直面した。</p> <p>英語においては、機械的集団編成を貫いた。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4つの技能を複数の指導者で分担して指導する体制をとった。それにより1時間ごとの授業の狙いが明確となり、指導者・生徒ともに集中して授業に取り組むことができた。指導者も2つの技能の教材研究に集中して行うことができ、教材・指導方法の工夫もこれまで以上に成果を上げた。しかし、進度の調整は前</p>

年度以上に困難になった。また、本来、4技能がバランスよく混在した授業を展開することが望ましい教科であるため、次第に授業内容にマンネリ化が見られるようになり、また、すべての指導内容をくまなく分担したつもりが、ある部分が抜け落ちてしまうことがあり、指導が不足する部分がでたりした。また、集団のメンバーも時々入れ替えて気分を変えないと、コミュニケーション活動にもマンネリ化が生じ、活動が不活発になることもあった。その結果、聞く力と話す表現力には伸長が見られた半面、英文の音読の能力と、英語を書く表現力が思うように身につかないという欠点が見られた。

生徒の学力の到達度を客観的に測る手立てとして、昨年度も川崎市中学校学習診断テストの結果を使用したため、今年度の結果と比較しようと試みたが、年度によって問題の難易度が異なるので、個々の生徒の学力の向上の度合いの変化は明確に測ることができなかったが、市の平均点との比較により、2年間少人数指導を継続して行った2学年の学力はかなり定着しているとの分析ができた。市全体の平均点には届かなかったものの、他の学年に比べると、少人数指導の成果がでたといえる結果となった。

生徒・保護者にとった意識調査を見ても、少人数指導を歓迎し、その継続を求める声が多かったことから、少人数指導は生徒の学習意欲を確実に高めているといえることができる。

2. 今後の課題

今年度の授業実践を通して、数学の習熟度別集団編成についても、英語の技能別指導についても、多くの成果を見ることができた。それと同時に、それぞれの指導方法の欠点もまた明確になった。3年間の研究のまとめとして、少しでもその欠点を改善する工夫をしていくことが次年度の大きな課題となる。また、その研究を進めていくことにより、数学・英語の各教科の特性をより明確に把握し、それぞれの教科における学力の向上のためにどんな手立てが有効であるかを見出したい。そのことが、本研究の成果を他の教科にも広げることにつながるのではないか、というのが今年度の研究の大きな仮説であり、また課題でもある。

学力等把握のための学校としての取組

生徒・保護者の学習に対する意識、少人数指導に対する考え方を把握するために、毎学期末にアンケートをとり、集計・分析することにより、生徒の学習意欲の向上の度合いを見取っている。

また、校内の定期考査、川崎市中学校学習診断テストの結果から、各教科の基礎学力の定着の度合いを見取っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

4月に保護者対象の学校説明会、12月に次年度の新入生保護者対象の学校説明会を開催。6月・11月に校内授業研究会を開催。2月16日には「中間報告会」を開催予定。学校のホームページに「フロンティアスクール」の項目を作成し、研究の成果を随時更新して普及に努めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	